

1 県民に開かれた図書館

県民の参加でつくる開かれた図書館とし、県民が必要とする資料・情報を利用できる機能と蔵書構成を整備します。また、生涯学習推進の拠点として、豊かな読書・学習・文化・交流活動のできる環境を提供します。

基本指標：中期的なサービス指標とはしないが、長期的視点では重視する指標

I 来館者数	平成28～令和元年度実績平均：998,190人
II 個人貸出冊数	平成28～令和元年度実績平均：1,418,749冊
III 登録者数	令和元年度末累計：279,734人
登録率（人口100人当たり）	令和元年度末：14.6人
IV 来館者アンケート利用者満足度	令和元年度：94.4%

○資料・情報の提供

現状の成果と課題

① 図書館の基本的な機能である資料・情報の提供を特に重視して、来館者サービスの向上に努めた結果、来館者数及び個人貸出冊数ともに都道府県立図書館の中でトップクラスを維持していますが、いずれも年々減少傾向にあり、県民の一層の活用促進を図る必要があります。一方で、貸出資料の延滞や汚破損等の迷惑行為が数多く見受けられます。

② 高齢者、障害者、外国人等、通常の図書館利用が困難な人々にも、開かれた図書館となるよう努めてきました。具体的には、高齢者向け紙芝居や大活字図書の実加え、録音図書などを提供するネットワーク「サピエ図書館」(※)を利用しての資料提供や障害者利用支援ボランティアと連携した対面朗読サービスを実施してきました。また、わかりやすい日本語を用いた利用案内の作成に取り組み、ホームページの外国語利用案内には新たにベトナム語を追加しました。今後とも、サービスを不断に見直しながら、誰にでも使いやすい利用環境を整えていくこと、各種サービスを有効に活用していただけるよう周知に努めることが必要です。

(※サピエ図書館：視覚障害者及び視覚による表現の認識に障害のある方々に対して点字、デジータータをはじめ、暮らしに密着した地域・生活情報などさまざまな情報を提供するインターネット上の図書館)

③ 全県域サービスの視点から、インターネットを通して非来館で利用できる、音楽配信サービス「ナクソス・ミュージック・ライブラリー」の提供を開始しました。また、岡山県立図書館以外の図書館での予約資料の受け取りを可能にするインターネット予約サービスや、資料相互返却サービス(※)を推進しました。県内公共図書館の協力を得て、岡山県立図書館の利用者登録の受付が26市町村で可能となり、利便性が高まりました。今後も、県内公共図書館等の協力を得ながらサービスを進めていく必要があります。

(※資料相互返却サービス：県立図書館で借りた資料を県内(岡山市内の一部を除く)の図書館等で、市町村立図書館等で借りた資料を県立図書館で返却することができるサービス)

サービス目標と具体的取り組み

① 来館者サービスの向上

豊富な蔵書を基盤に、企画展示、レファレンスサービス、講座等を行い、来館者と資料を結ぶ積極的働きかけを行います。案内表示、サイン、検索端末の利用環境等の整備を進めるとともに、施設・設備の点検、修理を計画的に行い、安心かつ快適な環境で利用できるよう努めます。引き続きキャンペーン等を通して利用者の自発的なマナー向上を働きかけます。

② ユニバーサルデザインの視点に立ったサービスの推進

誰にでも使いやすいように蔵書検索システムの機能の充実を図ります。またウェブアクセシビリティ規格（※）に配慮し、ウェブコンテンツのさらなる改善を進めます。

障害のある方の読書環境の整備を目指した「読書バリアフリー法」の理念を踏まえ、対面朗読のオンライン化について検討します。また、障害者サービス等において県内公共図書館や関係機関との連携の一層の強化を進め、全県的に効果的なサービス展開を図ります。

多文化サービスについては、利用者ニーズの把握に努め、利用を促進します。

（※ウェブアクセシビリティ規格：JIS X 8341-3:2016『高齢者・障害者等配慮設計指針—情報通信における機器、ソフトウェア及びサービス—第3部：ウェブコンテンツ』のこと。高齢者や障害のある人などが、ウェブコンテンツを利用する際のアクセシビリティを確保するために配慮すべき事項を規定したもの。）

③ 非来館型サービスの向上

全県域へのサービス提供の拡大のため、引き続き県内公共図書館等の協力を得ながら、各館での県立図書館利用者登録、インターネット予約サービスや資料相互返却サービスを推進します。音楽配信サービスやオンラインレファレンス等の非来館サービスの利便性を周知していきます。

外部環境の大きな変化や利用者ニーズを踏まえ、返却ポストの増設や郵送による資料の貸出サービスの拡充、電子書籍の導入について検討していきます。

【指標】インターネット予約貸出比率：毎年度個人貸出冊数の15%以上

○県民参加による図書館づくり**現状の成果と課題**

④ 県民の声を聞くために、提案箱での意見の受付や、来館者アンケートを継続実施し、サービス改善につなげてきました。来館者の満足度は高水準を維持していますが、未利用者や非来館者の意見聴取が課題として残ります。また、岡山県立図書館のサービスを広く周知するため、マスコミを通しての情報提供や、来館者に向けたバックヤードツアー、図書館見学等を実施するとともに、インターネットを活用して、ホームページやメールマガジン、SNSによる情報発信を行いました。今後は、多様化、高度化する各種図書館サービスを、県民に一層わかりやすく提示する必要があります。

⑤ 多分野にわたる内容のイベントを、主題別6部門制を基盤に多数開催し、普段図書館を利用しない層の掘り起こしにつなげてきました。また、様々な主体と連携するとともに、他機関の事業への積極的参画も行ってきました。今後とも、図書館の有する資源（職員、資料、施設）を有効に活用しながら企画、運営を行い、学習・文化活動や課題解決の機会を県民に提供することが必要です。

⑥ ボランティア（障害者利用支援ボランティア、児童サービス支援ボランティア、情報サービス支援ボランティア、メディア工房支援ボランティアの4種類）の受入を積極的に進めてきました。研修等によってボランティアの資質能力の向上を図るとともに、ボランティア同士の交流機会の提供が求められます。

⑦ 県民参加型の取り組みの一環として、郷土資料の網羅的な収集を目指す寄贈受入を行ってきました。また、郷土関係のデジタルコンテンツを募集し、デジタルアーカイブ機能を持つ郷土情報ネットワークに登録する「郷土情報募集事業」に取り組みました。今後とも、郷土岡山の価値ある情報を蓄積・発信していくという事業の趣旨について県民の理解を得ながら進める必要があります。

サービス目標と具体的取り組み**④ 公聴広報活動の推進**

公聴活動については、既存の取り組みのほか、未利用者や非来館者の意見聴取の方法を検討します。広

報活動については、報道機関への積極的な情報提供など既存の取り組みを徹底していくほか、SNSを活用して、時宜を得た広報や県内公共図書館、岡山カルチャーゾーン構成施設等の行事に合わせ利用案内などを行い、利用拡大を図ります。なお、有料貸出施設について、県民の生涯学習活動に活用してもらえよう、広報による利用拡大を図ります。

【指標】 ツイッターのフォロワー数を最終年度までに2,000人にする。(R2.6現在1,562人)

⑤ 図書館の魅力を伝えるイベントの開催

図書館の魅力を伝える「県立図書館フェスタ」や、「県立図書館とことん活用講座」など時節に応じた多彩な催し、資料・情報の提供につながるイベントを、様々な主体とも連携しながら実施します。

⑥ 県民との協働の推進

ボランティアの受入と、研修による資質能力向上を図ります。また、学習成果を発揮する場やボランティア同士の交流機会を提供します。読書グループや読書ボランティアの調査結果等を基に、地域における読書ボランティアの養成に際して、講師紹介や助言等による支援を行います。

⑦ 郷土資料の寄贈受入及び郷土情報募集事業の推進

県民の参加意識を高めることによって、取り組みを積極的に進め、価値ある郷土資料・情報の提供につなげます。

2 県域の中核となる図書館

すべての県民が身近な生活圏内で図書館を利用できるように全県域の図書館振興を目指し、県内公共図書館への支援の一層の充実を図ります。県域図書館ネットワークを拡充・強化するとともに、国立国会図書館、都道府県立図書館等の県外諸機関とも連携します。

基本指標：数値目標とはしないが、重要な指標として扱う指標

I 協力レファレンス件数 平成28～令和元年度実績平均：1,057件

○県内公共図書館の振興

現状の成果と課題
<p>① 図書館運営に関する相談などの県内公共図書館の支援については、公共図書館協議会・協力担当者会の開催や全自治体を対象に巡回相談事業の実施などを行ってきました。平成28年度以降、県内では新館、地区館の開館が相次ぎ、図書館サービスの空白地帯は大きく改善されました。こうした状況から図書館に対するニーズは高まっており、県民に身近な市町村立図書館への多角的なサービス支援を推進する必要があります。小規模図書館等に対する長期一括貸出や、読書グループ貸出も、図書館の整備が進んだとはいえ、今後も必要とされています。</p> <p>② 図書館の動向を把握するための県内公共図書館調査を実施し、ホームページで公開してきました。また、市町村からの問い合わせの多い指定管理者制度等の事例については随時調査を行い、結果を提供してきました。さらに月1回「岡山県立図書館協力ニュース」の発行を行い、情報提供に努めてきました。今後とも、ニーズに合ったきめ細かい情報提供を行う必要があります。</p>
サービス目標と具体的取り組み
<p>① 県内公共図書館への支援の推進</p> <p>全県的な図書館サービスの拡充に向け、既存の支援事業に引き続き取り組みます。具体的には、市町村図書館等への協力貸出し、支援用図書の充実、協力レファレンスなどサービス支援を推進していくとともに、日常的な図書館運営に関する様々な相談に対応し、情報交換できる環境を整備します。その一環として、公共図書館協議会や協力担当者会、全自治体への巡回相談を継続して実施し、各館の現状や課題を把握して情報の提供や助言を行います。これにより、「第3次岡山県教育振興基本計画（案）」5・生涯学習環境の整備と文化・スポーツの振興に寄与します。</p> <p>【指標】 県内公共図書館への協力貸出 最終年度に40,000冊以上 【指標】 巡回相談実施延件数 毎年度75件以上</p>
<p>② 図書館に関する調査とその公表の推進</p> <p>県内公共図書館調査等の定例の取り組みを推進するとともに、「災害に関連する図書館の取組状況調査」などニーズや重要性を見極めたきめ細かい調査を行い、県内公共図書館のサービス向上等に役立てます。</p>

○図書館職員の資質能力の向上

現状の成果と課題
<p>③ 多様化、高度化する利用者ニーズに対応するため、図書館職員が専門的能力・知識等を習得する研修を実施してきました。さらに、県内公共図書館や市町村教育委員会が開催する研修に岡山県立図書館職員を講師として派遣し、県全体の図書館職員の資質能力向上につなげてきました。遠方からの参加が難しいこ</p>

とや、講師派遣依頼の増加などの課題を踏まえながら、今後の県内図書館職員の研修のあり方を検討していくことが必要です。

④ 岡山県立図書館においては、研究グループ（※）制度により、職員の専門性の向上に取り組み、日常業務や講師派遣において成果を上げてきました。近年、図書館に求められる役割が多様化し、館内での研究グループの成果を共有する必要性が一層高まっています。

（※研究グループ：岡山県立図書館内に設置した、チームで業務別の共同研究を行う職員研修組織。研修成果は、講師派遣及び業務改善に活用している。）

サービス目標と具体的取り組み

③ 図書館職員研修の充実

研修については、より実践的な内容とし、研修実施後、内容を各館に情報提供し共有できるよう配慮します。また、講師派遣制度の充実とともに、研修を受けた市町村職員自身が講師を務めるよう促し、県全体の図書館職員の資質能力向上を図ります。さらに、研修の機会を確保するためインターネットを利用した遠隔研修を検討します。

④ 岡山県立図書館職員の専門性の向上

県域の公共図書館の支援を行うという広い視野に立ってグループ研究に取り組み、その成果は館内研修等で共有し、日常業務の改善や講師派遣制度に活用します。また、国立国会図書館の遠隔研修の活用など研修形態のあり方を検討していきます。

○図書館ネットワークの拡充・強化

現状の成果と課題

⑤ 県域の図書館協力の基盤として、ネットワークに参加する県内図書館の蔵書を一括検索できる岡山県図書館横断検索システム、さらに相互貸借支援機能を持つ岡山県図書館間相互貸借システムと、物流ネットワークの資料搬送システムは定着しました。今後とも、ネットワークを安定的に維持していく必要があります。

⑥ 県外図書館との間では、相互貸借や、国立国会図書館総合目録ネットワーク、国立国会図書館レファレンス協同データベースへのデータ提供等によって協力関係を維持するとともに、質・量の両側面で極めて高い貢献をしてきました。なお、今後もネットワーク維持・更新のため新しい技術動向への対応を継続していく必要があります。

サービス目標と具体的取り組み

⑤ 県内図書館等とのネットワークの推進

県内公共図書館等既存の参加館と協力しながら安定的なネットワークを維持するとともに、大学図書館等との連携の拡大を図ります。また、「岡山連携中枢都市圏図書館相互利用」などの県域の広域ネットワークの動向を注視していきます。

⑥ 県外図書館等とのネットワークの推進

新しい技術動向に対応しつつ、全国的ネットワークの地域拠点機能を果たし、県外図書館等との協力関係を維持します。

3 調査・研究センターとしての図書館

県民の知的ニーズに応えられる調査・研究支援機能の充実を図ります。専門的職員と資料を備える主題別6部門制の特色を活かし、県民の仕事や暮らし、地域課題の発見と解決に役立つ資料・情報、学習機会を提供します。

基本指標：数値目標とはしないが、重要な指標として扱う指標

I レファレンス件数 平成28～令和元年度実績平均：86,098件

○主題別6部門制による調査・研究支援

現状の成果と課題
<p>① レファレンスは、質的向上を図るとともに、レファレンスデータベースへの事例登録を進めてきました。その結果、当館のレファレンス事例が地方創生レファレンス大賞最高賞の文部科学大臣賞を受賞したり、来館者の目的達成度は約95%（※）に達したりするなど、高い評価を受けてきました。今後も、レファレンスサービスのさらなる充実が必要です。</p> <p>（※毎年実施している来館者アンケートによる。）</p> <p>② 主題別6部門の専門性を活かし、関係専門機関とも連携しながら、展示や講座を企画・開催し、県民の調査・研究や知的ニーズに応じてきました。今後も多様なニーズに対応するために、関係専門機関等との連携を深めていくことが必要です。</p>
サービス目標と具体的取り組み
<p>① レファレンスの充実</p> <p>主題別6部門制に基づく専門性の高いレファレンスを行い、レファレンスデータベース※へ登録するほか、レファレンスツールとしてのブックリスト、調べ方案内（パスファインダー）等の作成・更新に取り組み、県民の調査・研究に役立てます。提供にあたっては、利便性の向上に努めます。</p> <p>（※レファレンスデータベース：図書館等に寄せられたレファレンス（調査相談）に図書館が答えた内容をデータベース化し、検索・閲覧できるようにしたシステム）</p> <p>【指標】レファレンス事例の公開件数 毎年度180件以上</p>
<p>② 関係機関と連携した調査・研究支援の充実</p> <p>利用者と関係専門機関をつなぐレフェラルサービス※の充実を図ります。特に、重点収集資料である交通文化資料については、関係機関の協力も得ながら魅力ある企画展示を行ったり、二次資料の作成を進めるなど、当館の特色として今後も情報発信を続けます。</p> <p>（※レフェラルサービス：情報を求める利用者に対し、その情報源や詳細な情報を有する専門機関などを紹介するサービス）</p>

○課題解決支援機能の充実

現状の成果と課題
<p>③ 課題解決支援の中核に位置付けられるビジネス支援については、関係資料の積極的収集と提供を進めるとともに、産業振興関係団体や県庁関係課等との連携を通して、創業・起業を中心とする連携講座、相談会等に取り組んできました。その結果、当館の講座の受講生から起業家が誕生したり、高校生対象のビジ</p>

ネスブラングランプリでは、上位入賞を果たしたりするなど成果を上げてきました。一定の成果を修め講座を終了した団体もあり、今後は講座の開催だけでなくビジネスに役立つ様々な情報を幅広く提供し、フォローアップにも努める必要があります。

④ 県民生活により身近な、子育て・教育活動支援、行政支援、法情報提供、健康医療情報の提供等のサービスに、公共機関・企業・学校等と連携しつつ取り組んできました。社会環境の変化に伴う新たな課題や要請にも対応していけるようにすることが求められます。特に防災関連情報やまちづくりに関する情報などの提供を充実させる必要があります。また、潜在的なニーズを持った未利用者へサービスを周知していくことも必要です。

サービス目標と具体的取り組み

③ ビジネス支援の充実

地域産業を担う方、多様な業種の専門家、創業・起業を考える方、キャリアアップを目指す方、就職を考える方に、豊富な蔵書を基盤にデータベース等のデジタル情報も活用した支援を継続します。また、関係する県庁各部署等との連携をより深め、セミナー等のイベント開催やビジネスに役立つ情報提供を推進します。以上の取り組みを通して「第3次晴れの国おかやま生き活きプラン（仮称）（案）」・重点戦略Ⅱ・地域を支える産業の振興に寄与します。

④ 身近な課題解決支援の充実

二次資料の作成・配布等によって、利用者自らによる課題解決を促進します。また、主催講座、連携講座、企画展示、連携展示等を通してニーズを踏まえた課題解決支援を行うとともに、積極的な情報発信により、未利用者にも図書館を身近な存在として認知してもらえよう取り組みます。以上の取り組みを通して「第3次晴れの国おかやま生き活きプラン（仮称）（案）」・重点戦略Ⅲ・安心で豊かさが実感できる地域の創造に寄与します。

【指標】ウェブ上で公開したブックリストの作成件数：毎年度150件以上

○児童図書研究室の活用

現状の成果と課題

⑤ 新刊児童図書の全点収集、児童図書研究書の収集を基盤に、充実した研究環境を提供してきました。館内での利用にとどまらず、市町村図書館への巡回展示や協力貸出を行ってきました。さらに、中央教科書センター丸の内分館として、現行教科書の展示を行ってきました。以上のような取り組みにより、子どもの読書に関わる方や関係機関への調査・研究支援や情報提供に成果を上げてきました。今後も、子ども読書活動に関する調査・研究を担う施設として機能の充実を図る必要があります。

サービス目標と具体的取り組み

⑤ 新刊児童図書および児童図書研究書収集の促進

新刊児童図書の全点購入や児童図書研究書の積極的収集を継続し、子ども読書活動推進センター機能の一層の充実を図ります。

4 デジタルネットワークに対応する図書館

デジタル情報の受発信基地として、「デジタル岡山大百科」のコンテンツ充実とともにオープンデータ化を推進します。また、県民の多様なニーズに対応するため、デジタル情報源の活用を促進します。

○デジタル岡山大百科の充実

現状の成果と課題
<p>① 郷土情報ネットワークにおいては、郷土資料のデジタル化、市町村図書館、大学図書館、関係機関のシステムとの連携、県民からデジタルコンテンツを募る郷土情報募集事業等により、デジタルコンテンツの拡充を図ってきました。さらなるデジタルコンテンツの拡充とサービスの周知による利用促進が必要です。また、現状ではデジタルコンテンツの利用がデジタル岡山大百科の閲覧に限定されており、より広く活用してもらうための環境整備が課題となっています。</p> <p>② レファレンスデータベースは量的充実が図られ、活用も進んできました。引き続き県内公共図書館とともに事例の登録、提供の意義を認識しながら、レファレンスデータベースの効率的な運営に取り組む必要があります。</p>
サービス目標と具体的取り組み
<p>① 郷土情報ネットワークの充実と利用促進</p> <p>郷土情報募集事業や関係機関との連携強化等を通して、価値ある郷土情報の蓄積に努め、活用方法を広報します。デジタル化にあたってはメディア工房支援ボランティアと協働で進めます。デジタルコンテンツの活用にあたっては、広く一般の方に利用されるようオープンデータ化を検討します。</p>
<p>② レファレンスデータベースの充実</p> <p>県内公共図書館等と連携しレファレンス事例の一層の充実を図ります。また、効率的な運営を目指し、図書館業務システムのレファレンス機能や国立国会図書館のレファレンス協同データベースの活用方法を検討します。</p>

○デジタルネットワークの活用

現状の成果と課題
<p>③ 外部から導入して提供するデータベースサービス等の周知を行うとともに、情報サービス支援ボランティアによる情報検索支援サービス等も活用しながら、データベースの利用を促進してきました。また、Wi-Fiやタブレット端末の導入など利便性の向上を図ってきました。今後とも一層の利用促進が必要です。</p> <p>④ サピエ図書館を活用し、ダウンロードやオンラインリクエストによる音訳データ等の提供を行っています。なお、平成28年4月施行の障害者差別解消法、令和元年6月施行の読書バリアフリー法に県内公共図書館が対応できるように、サピエ図書館活用のノウハウの提供や連携を進めていく必要があります。</p> <p>⑤ 電子書籍サービスの導入については、これまでの検討結果と、外部環境の変化を踏まえ、新規導入を視野に具体的取り組みを進めていくことが求められています。</p>
サービス目標と具体的取り組み

③ 外部から導入して提供するデータベースサービス等の利用促進

直接来館することによってはじめて利用できる当該サービスをデータベース活用講座などを利用して周知し、利用促進を図ります。

【指標】外部から導入して提供するデータベースサービス等の利用者数 毎年度1,800人以上

④ サピエ図書館等の活用の推進

取り組みを一層進めるとともに、県内公共図書館へノウハウを提供しながら、全県域での障害者サービスを充実させます。

【指標】サピエ図書館データのダウンロード点数：最終年度に5,000点以上

⑤ 電子書籍サービスの導入

電子書籍サービスの導入については、公共図書館向けコンテンツ数の不足や費用において課題はあるものの、情報端末の普及や教育の情報化、読書バリアフリー法の施行、さらには感染症対策など外部環境が大きく変化してきており、導入に向けて収集基準の見直しなど具体的方策を検討します。

5 資料保存センターとしての図書館

すべての県民が共有する知的財産として図書館資料を収集、整理、保存し、後世に継承します。
県内公共図書館等から移管資料を受け入れ、県域における永続的活用を図ります。

基本指標：数値目標とはしないが、重要な指標として扱う指標

I 新刊図書の購入冊数 平成28～令和元年度実績平均（1億円に割り戻し）29,363冊

○資料の収集

現状の成果と課題
<p>① 全国トップクラスの資料購入費により、県民の多様なニーズに応えてきました。新刊児童図書の全点収集、高齢者サービスとしての大活字図書の積極的収集を進めてきました。以上の取り組みの結果、平成30年度には蔵書冊数が全国平均を超え、全国第5位となりました。とはいえ、継続的な資料購入費の確保は、もっとも重大な課題の一つであり、今後も予算確保に努める必要があります。</p> <p>② 郷土資料についてはこれまでも網羅的な収集を継続してきました。今後とも、岡山県関係資料の最後の拠り所に相応しい水準を維持する必要があります。</p>
サービス目標と具体的取り組み
<p>① 新刊図書の効率的な収集</p> <p>県民及び県内図書館からの高度化、多様化する資料要求に応えられるように、新刊図書の効果的な収集と、効率的な予算執行に努めます。また、引き続き、資料購入費の確保に努めるとともに、雑誌スポンサー制度やふるさと納税制度を活用し、資料収集に活かします。</p>
<p>② 郷土資料の収集の促進</p> <p>郷土資料の収集については、量的充実と合わせ、未所蔵資料の遡及収集に積極的に取り組みます。購入や寄贈のほかに、資料の必要性に応じて、他館所蔵資料の複製やデジタル媒体の印刷製本等の柔軟な方法で収集します。</p> <p>【指標】 自館で複製した郷土資料受入れ数：毎年50点以上</p>

○資料の保存

現状の成果と課題
<p>③ 多様かつ大量の購入資料・寄贈資料及び県内公共図書館からの移管資料の受入、保存を進めてきました。なお、寄贈資料、移管資料の受入体制整備や、県内公共図書館における県域内での資料の保存意識の定着を図る必要があります。また、開館から15年以上が経過し、書庫の老朽化への対応や資料保存場所の確保についても検討が必要です。</p> <p>④ 長期保存の視点から、原資料の保存と利用のためのデジタル化を行い、郷土情報ネットワークへのデジタルアーカイブに取り組んできました。今後とも、計画的、継続的に取り組んでいくことが必要です。</p>
サービス目標と具体的取り組み
<p>③ 県域の資料保存センター機能の充実</p> <p>県域の資料保存センターとしての機能を果たすため、受入資料については原則として永年保存します。</p>

また、県内公共図書館等の移管資料の受入を行うとともに、寄贈資料の円滑な受入、保存に努めます。書庫整備については長期的視野に立ち、計画的に取り組みます。

④ 長期保存対策の推進

劣化が著しく代替資料がない郷土資料のデジタル化を、メディア工房支援ボランティアと連携しながら優先的に行います。また、再生機器の旧式化にともない、永続的活用が困難と見込まれるカセットテープやVHSなどの郷土資料の媒体変換も優先的に行います。

【指標】 デジタル化した郷土資料点数：毎年度25点

重点プログラム1 いきいき子ども読書プログラム

全県域の子ども読書活動推進センターとしての機能を充実します。子どもの読書に関わる調査研究を支援するとともに、子どもへのサービスを充実します。また、子どもが一番身近な読書・学びの拠点である学校図書館を支援します。以上の取り組みを通して、「第3次晴れの国おかやま生き生きプラン（仮称）（案）」・重点戦略Ⅰ・教育県岡山の復活に寄与します。

○子ども読書活動推進センター機能の充実

現状の成果と課題

- ① 児童図書研究室における新刊児童図書の全点収集、児童図書研究書の収集を基盤に、充実した研究環境を提供してきました。館内での利用にとどまらず、市町村図書館への巡回展示や協力貸出を行ってきました。また、『児童図書研究室だより』の発行や読書グループに関する調査を実施しました。さらに、中央教科書センター丸の内分館として、現行教科書の展示を行ってきました。以上のような取り組みにより、子どもの読書に関わる方や関係機関への調査・研究支援や情報提供に成果を上げてきました。今後も、子ども読書活動推進センター機能の充実を図る必要があります。
- ② 県内公共図書館や学校図書館関係職員、読書ボランティア等、子どもの読書に関わる大人を対象に研修を実施し、その内容をホームページ等によって広く情報提供してきました。また、読書ボランティア団体等についての情報の収集に努め、そのネットワーク化と、主体的な取り組みを支援してきました。引き続き研修についてのきめ細かいニーズを把握する必要があります。
- ③ 子どもへのサービスについては、家族、保護者とも一体となった利用を念頭に置くとともに、児童サービス支援ボランティアと連携しながら提供してきました。なお、図書館利用が疎遠となりやすい中高生の利用促進と不読率の解消に向けて、中学校、高等学校の学校図書館と連携しながら、取り組んでいく必要があります。また、資料を通して、郷土愛を醸成するとともに、全ての学びの原動力となる夢や目標を育む「夢育」を進めることが必要です。

サービス目標と具体的取り組み

① 子どもの読書に関する調査・研究の支援の推進

新刊児童図書の全点購入や児童図書研究書の積極的収集を継続し、子ども読書活動推進センター機能の一層の充実を図ります。また、子どもの読書に関わる方や関係機関に対して、新刊児童図書、児童サービスの実態や取り組み等に関する様々な情報を広報紙やホームページ等で提供します。

② 子どもの読書に関わる研修・普及啓発活動の推進

研修の形態は、講義のみならず、アンケートなどをもとにボランティアの声を反映させた事例発表、連絡会、交流会等の多様な形態を取り、その内容は実践的なものとします。また、読書ボランティア団体等の取り組みを引き続き支援します。

③ 子どもへのサービスの充実と郷土岡山を大切に作る心の育成

資料の充実を図るとともに、読み聞かせ、ストーリーテリング等の行事を、児童サービス支援ボランティアと連携しながら行います。保護者の読書相談にも対応します。学校図書館と連携し県立図書館の魅力や活用方法を周知するとともに、ティーンズコーナーの運営や図書館見学を実施することにより、中高生の利用促進と不読率の解消を目指します。また、図書館の利用に特別な配慮を必要とする子どもの読書活

動を支援します。さらに、子どもが郷土岡山を大切に思い、世界に視野を広げ、夢や目標を持ち、よりよい社会づくりに参画する心や態度を育成するために、多種多様な資料に触れる機会として企画展示等のサービスを充実させます。

【指標】おはなし会参加人数（団体見学時含む）：最終年度に 6,500人以上

○学校図書館への支援

現状の成果と課題

⑤ 県立学校及び私立学校図書館等に対して、協力貸出しとテーマ別にセットした学校図書館支援用図書の利用を行ってきました。この資料を活用した巡回訪問展示を新たに開始し、支援を強化してきました。市町村立学校図書館に対しては、市町村図書館を通じて資料の貸出しを行ってきました。しかし、これらの取り組みが十分周知できていないことが課題です。学校図書館担当職員向けに、各種研修を行ってきましたが、今後もニーズを踏まえた内容で継続して行うことが必要です。

⑥ 学校図書館協議会等との連携を通して、学校図書館との協力体制の構築を進めてきました。学校図書館は子どもの自由な読書活動と、主体的・対話的で深い学びを支え、子どもの学びの原動力となる夢や目標を育てる役割を担う施設であり、今後とも、効果的な協力体制を推進していく必要があります。

サービス目標と具体的取り組み

⑤ 学校図書館への支援の推進

学校図書館担当職員（学校司書・司書教諭）等を対象とした専門的な研修を開催するとともに、こうした機会を通して、県立図書館が行っている学校図書館支援について引き続き周知を図ります。また、学校等で開催される研修に、必要に応じて図書館職員を派遣します。

【指標】学校図書館への協力貸出冊数：最終年度に 35,000冊以上

⑥ 学校図書館との協力体制の推進

県立図書館は子ども読書活動推進センターとして、学校図書館協議会等と連携協力しながら、主体的・対話的で深い学びや「夢育」等が効果的に実施できるよう、学校図書館への支援を充実していきます。また、公共図書館と地域の学校図書館等とのネットワークの構築についても情報収集を行い、市町村に対し情報提供に努めます。

重点プログラム2 図書館資源の活用促進プログラム

情報技術の進展、グローバル化と人口減少・超高齢社会、増加する自然災害など環境の変化に感じながら、すべての県民が生涯にわたって、県内のどこにいても図書館が持つ資源（職員、資料、施設）を有効に活用できるよう、より使いやすく、暮らしや仕事に役立つ図書館サービスを目指します。

○図書館資源のアクセシビリティ向上

現状の成果と課題

- ① 「デジタル岡山大百科」の運営や「ナクソス・ミュージック・ライブラリー」の提供などを通し、県民がいつでも、どこからでも情報へアクセスすることができるような取り組みを進めてきました。今後、こうした来館せずに受けられるサービスを一層拡充していく必要があります。
- ② サピエ図書館を活用したサービスの提供や対面朗読サービスの実施など、図書館利用に障害のある方への読書支援に取り組んできました。外国語利用案内や外国語資料の提供など、外国語を母語とする方への読書支援にも努めてきました。今後は誰もが使いやすい図書館として、読書支援サービスの拡充や資料の検索環境、ウェブアクセシビリティの改善など利用環境全般の整備を一層進めていくことが大切です。
- ③ 郷土情報ネットワークにおいては、郷土資料のデジタル化、市町村図書館、大学図書館、関係機関のシステムとの連携、県民からデジタルコンテンツを募る郷土情報募集事業等により、デジタルコンテンツの拡充を図ってきました。さらなるデジタルコンテンツの拡充とサービスの周知による利用促進が必要です。また、現状ではデジタルコンテンツの利用がデジタル岡山大百科の閲覧に限定されており、より広く活用してもらうための環境整備が課題となっています。

サービス目標と具体的取り組み

① 電子書籍サービスの導入(再掲)

電子書籍サービスの導入については、公共図書館向けコンテンツ数の不足や費用において課題はあるものの、情報端末の普及や教育の情報化、読書バリアフリー法の施行、さらには感染症対策など外部環境が大きく変化してきており、導入に向けて収集基準の見直しなど具体的方策を検討します。

② ユニバーサルデザインの視点に立ったサービスの推進（再掲）

誰にでも使いやすいように蔵書検索システムの機能の充実を図ります。またウェブアクセシビリティ規格（※）に配慮し、ウェブコンテンツのさらなる改善を進めます。

障害のある方の読書環境の整備を目指した「読書バリアフリー法」の理念を踏まえ、対面朗読のオンライン化について検討します。また、障害者サービス等において県内公共図書館や関係機関との連携の一層の強化を進め、全県的に効果的なサービス展開を図ります。

多文化サービスについては、利用者ニーズの把握に努め、利用を促進します。

（※ウェブアクセシビリティ規格：JIS X 8341-3:2016『高齢者・障害者等配慮設計指針—情報通信における機器、ソフトウェア及びサービス—第3部：ウェブコンテンツ』のこと。高齢者や障害のある人などが、ウェブコンテンツを利用する際のアクセシビリティを確保するために配慮すべき事項を規定したもの。）

【指標】 障害者向け資料貸出冊数毎年度6,000冊以上

③ 郷土情報ネットワークの充実と利用促進（再掲）

郷土情報募集事業や関係機関との連携強化等を通して、価値ある郷土情報の蓄積に努め、活用方法を広報します。デジタル化にあたってはメディア工房支援ボランティアと協働で進めます。デジタルコンテン

ツの活用にあたっては、広く一般の方に利用されるようオープンデータ化を検討します。

【指標】デジタル化した郷土資料点数：毎年度25点

○地域課題の解決に役立つ資料・情報の提供

現状の成果と課題

④ 近年、自然災害への地域をあげた防災・減災の取り組みに対する関心が高まっています。こうした取り組みには、過去の災害の記録が重要な役割を果たします。平成30年7月豪雨災害では、県危機管理課や県図書館協会と協力し、貴重な災害記録の散逸を防ぎ、後世に引き継ぐために、豪雨災害関連資料の寄贈の呼びかけを行ってきました。今後も継続して資料の収集を行っていくとともに、広く防災・減災に役立ててもらうことが求められます。

⑤ 県民生活により身近な、子育て・教育活動支援、行政支援、法情報提供、健康医療情報の提供等のサービスに、公共機関・企業・学校等と連携しつつ取り組んできました。引き続き、社会環境の変化に伴う新たな課題や要請にも対応していけるようにすることが求められます。また、潜在的なニーズを持った未利用者へサービスを周知していくことも必要です。

サービス目標と具体的取り組み

④ 防災・減災に役立つ資料の収集保存と情報発信

外部機関とも広く連携し、県民から寄せられた県内災害の記録を収集し「デジタル岡山大百科」を活用した災害記録のアーカイブを進めます。また、県内自治体によるハザードマップ等の情報も広く収集し、併せて県民に提供していきます。防災・減災に役立つ資料の情報発信を積極的に進めていきます。

⑤ 身近な課題解決支援の充実

実用書から専門書までの幅広く豊富な蔵書やデータベースを活用して、専門的な知識と経験を備えた職員によるレファレンス（資料相談）を行い、関係機関とも連携しながら、健康医療や子育て、行政支援など、利用者の身近な課題の解決を支援し、県民のくらしや仕事に一層役立つ図書館となるよう取り組みます。また、こうした図書館機能の情報発信を積極的に行い、多くの県民に利用していただけるよう努めます。